

## 2015年度 地域社会研究センターの活動

2015年度の地域社会研究センターの研究員は、篠藤明德(政治学、地方自治)、大嶋美登子(臨床心理学)、関谷忠(地域経営学)、松田美香(社会言語学、方言)、長尾秀吉(社会教育学)、西村靖史(脳神経科学、情報教育)、尾口昌康(精神保健福祉学)、林真帆(社会福祉学)、阿部博光(政策学、再生エネルギー)、中川隆(農業経済学)、池口功晃(観光経済学)、米元俊一(醸造・香科学)の11名である。

### 学内研究会活動

昨年度より、センターでは定期的に研究会を開催しているが、2015年度の研究会は以下の通り行われた。後期は大学行事や委員会と重なり、なかなか開催できなかったことは残念であった。

4月8日(水) 第1回研究会「別府大学地域連携推進センターの活動」(飯沼賢司・地域連携推進センター長)

5月13日(水) 第2回研究会「世界の醸造酒」(米元俊一研究員)

6月3日(水) 第3回研究会「大分県の行政活動」(二宮滋夫・別府大学理事長)

10月7日(水) 第4回研究会「別府大学と地域社会」(佐藤瑠威・大学副学長、飯沼賢司センター長、盛本功爾郎・大学事務局次長、篠藤明德・地域社会研究センター所長)

### 出版活動

センターでは、創設以来「地域社会研究」を毎年出版してきた。25号(2015年7月)は、地域社会研究センターの創設メンバーの一人であった梶原博研究員(短期大学部地域総合科学科教授)が急逝されたため、同研究員を偲ぶ特集号であった。同氏を失ったことは、センターにとっても大変悲しい出来事であったが、創設メンバーである秋田清前所長や大嶋研究員、また、センター外の山野教授を含め、座談会を開催できたことは、センターの歴史を振り返る意味でも貴重なものとなった。

また、日本ミニ・パブリックス研究フォーラムの設立に関する特集号として、本号・26号(2016年3月25日)を発行した。

### 大分県自治体視察

センターではここ数年、大分県の自治体視察を行っている。大分県は、10年前の平成の大合併で58市町村から18市町村に激減した、全国の中でも最も合併の進んだところである。そこでセンターでは、合併後の状況を調査するため、こうした自治体を視察してきた。2012年度は竹田市、翌13年度は日田市、昨年度は姫島村であった。

今年度は、2月26日、27日に再度、日田市を訪れることとなった。参加したのは、篠藤、松田、長尾、西村、池口の各研究員と地域連携推進センター長の飯沼教授である。今年度の視察の特徴は、2月26日(金)の午後、後述する「あまがせ・まちづくりシンポジウム」に参加したことである。詳細は次号で紹介するが、日田市天瀬町の人々と「夜なべ談義」ができたことは大変意義深かった。

### その他の地域活動

センターのその他の活動としては、第8回市民討議会・見本市(2015年5月16日、東京都三鷹市)の後援(「地域社会研究」25号掲載)と、第2回まちづくりシンポジウム「魅力あふれるあまがせの創生」(2016年2月26日、日田市天瀬公民館)の後援(「地域社会研究」27号掲載予定)が主だったものである。

また、阿部博光研究員は、センターからの補助を受け、ここ数年継続している福島県における再生エネルギーに関する調査研究を実施した。